

## 江差町立南が丘小学校



## かけはし

【本年度の重点目標】

『学び合い高め合う子どもの育成』

〔笑顔!〕〔習慣!〕〔学び合い!〕

Tel 0139-52-0524 Fax 0139-52-5489



## 『挨拶で人生が変わる人もいる』

校長 木村 英明

6月5日に開催された運動会では、子どもたちが本当に生き生きとした姿を見せてくれたと思いますし、それに対して観客の皆様が閉会式で称賛の拍手を送ってくださったことに校長としてあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。天気にも恵まれ、正直今年赴任した者としてほっとした部分もありますが、それ以上にあの会場にいた全員でつくりあげたい運動会だったと考えていたのですが、皆様にとってはどんな運動会だったのでしょうか。

さて、今月になって、子どもたちに何度か挨拶について話しました。朝の登校風景を見ていて、本校の子どもたちの挨拶は比較的良好に思っています。先日檜山教育局の方がみえた際にも本校の子どもたちの挨拶をほめていただきました。ただ、挨拶にも個人差があって自然と大きな声で「おはようございます!」と挨拶できる子どももいれば、自分なりに努力してようやく小さな声で「おはようございます」と挨拶する子どももいます。ですから、そういう子どもたちの姿を見てみると、挨拶は簡単でもあり、難しくもあるというのが率直な思いです。



でも、今回子どもたちに話す度に次の日の子どもたちの挨拶は良くなっていきましました。そういう他者の話を素直に受け入れる力が本校の子どもたちの中にあるのを感じますし、南小の子どもたちの魅力のひとつだと思います。このように他者のアドバイスを聞いて、これまでの自己を見つめ直して、新たなステップの行動がとれるという一連の流れはとても大切な思考です。

さて、ここで、挨拶に関するエピソードをひとつ紹介させていただきます。

『あいさつ』はたった一言ながら、その人の人生を変えてしまう力がある。……  
 「芸人としての才能がないから辞めさせよう」と、演出家の指摘で、ある青年が浅草東洋劇場から追い出されそうになった時、「彼のあいさつは快い。辞めさせないで!」と青年を庇護(ひご)する声が上がると、無事彼の首は繋がった。  
 後のコメディアンのスーパースター、萩本欽一の修業時代の実話である。

この萩本欽一氏のエピソードでも分かるように挨拶はその人の人生を豊かにしてくれるスキルだと思います。それだけに、本校の子どもたちには、このスキルを身に付けて周囲から好かれる存在になってほしいと願います。

最後になりますが、学校も陸上競技大会が終了し、現在は7月1日に開催する公開研究会に向けた準備を進めています。遠足などの行事があった日も本校の職員は放課後に集まって授業づくりの準備を進めてきました。校長としてこのような誠実な職員を誇りに思いますし、保護者の皆様にもそのことをご理解いただきながら、どうか今後も本校の職員を支えていただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

# 『全力で最後まで頑張った』大運動会！！



子どもたちは、『歴史に残せ！！82人のチームワークを！』のスローガンの達成に向けて、各種目に全力で取り組みました。応援や係の仕事でも頑張る姿をご覧いただくことができたのではないのでしょうか。当日は保護者・地域の方々からたくさんの温かい声援、また進んで競技にも参加して下さり、運動会が大いに盛り上がりました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

学校の一大行事である運動会が、無事に終了することができました。運動会の成功に向けた取組や経験を通して子どもたちも様々なことを学び、成長してくれたと思います。

南が丘小学校はこれからも、最後まで一杯頑張ろうとする「子どもの姿」で、保護者の皆様、地域の皆様の学校に寄せる期待や要望にお返しすることができるよう、職員一同努めて参ります。今後ともご理解・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

運動会につきまして、先日保護者アンケートを実施したところ、8割を超えるご家庭よりたくさんのご意見をいただきました。結果につきましては、7月13日（水）のPTA評議員会で説明し、各家庭へも配布いたします。来年度の改善に向けて、今年度のうちに準備を進めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。ご協力ありがとうございました。

## 緊急地震速報～子どもの安全を確保しながら対応

6月16日（木）、緊急地震速報が入り、校内放送後、先生方の適切な誘導で、全児童が玄関前にすばやく避難をしました。その後、震度6弱という地震に伴う津波の状況や通常より早い時間に下校させても大丈夫かどうかを保護者の方と連絡を取り合い、学校として集団下校の対応を取りました。

震災などの非常事態時には、何よりも「耳」で指示や情報をしっかりと聞くことが大切になります。どんなときでも、自分の命を自分で守れるよう、話をしっかりと聞けることやすばやく行動することに、今後も心がけていきたいものです。急な連絡や引渡し時の確認等、保護者の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ミニトマトやかぼちゃの苗など学年ごとに学級園作業をしました。収穫の日が楽しみです。



6/22 一斉あいさつ運動  
笑顔と大きな声の挨拶。気持ちの良い一日が始まりました。



6/7 正面玄関前の花壇整備  
PTA 研修委員さんと1・2年生でマリーゴールドを植えました。

# 「いじめ根絶」をめざした学校づくり

本校では、いじめ問題の防止に向けて、『南が丘小学校いじめ防止基本方針』を策定し、「いじめは、どの学校でも、どの学級にも、どの子どもにも起こりうる」という基本認識に立ち、本校の全ての児童が楽しく豊かな学校生活を送れるよう努めています。年間を通じては、主に下記の取組を確実に実践し、いじめのない学校づくりを目指しています。

児童への指導 に関わって	○児童一人一人が認められお互いを大切にし合い、学級の一員として自覚できるような学級づくりを行う。 ○思いやりの心や児童一人一人が大切な存在であるといった命の大切さを道徳の時間や学級活動等の指導を通して行う。 ○「いじめは決して許されないことである」という認識を児童がもつよう、様々な活動の中で指導する。 ○見て見ないふりをするのは「いじめ」をしていることにつながることや、「いじめ」を見たら、先生方や友達に知らせたり、やめさせたりすることの大切さについて指導する。その際、知らせることは決して悪いことではないことについても併せて指導する。
教職員の意識改革	○「いじめ問題」に関する校内研修を行い、「いじめ」について本校教職員の理解と実践力を深める。 ○道徳の時間の授業公開を全学級が公開するなど、思いやりの心や命を大切にする心の育成を育む指導の充実に努める。
保護者との連携等	○児童が発する変化のサインに気付いたら、学校に相談することの大切さについて発信する。 ○ネットでのいじめに対応するため、携帯電話、スマホ等の利用における危険性やフィルタリングの必要性について、学級懇談や個人面談、家庭訪問等で保護者に伝える。

他にも、「いじめの把握のためのアンケート」、「楽しい学校生活を送るためのアンケート」(Q-U)をそれぞれ2回実施。また、アンケート結果を基にした児童との「個別の教育相談」、保護者との「個人面談」の実施。さらに、フレンズサポート学習などの取組を進めます。

なお、5月16～17日に全校一斉に実施した、第1回の「いじめの把握のためのアンケート調査」の集計結果からは、

- ①「いじめられたことがありますか」の問いに「ある」と回答した子どもが数名いる。
- ②「いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか」の問いに「そう思わない」「わからない」と回答した子どもが数名いる。

ことが把握できました。

本校では早速、①について、担任による綿密な個別の教育相談(聞き取り)を行い、「いじめられたことがある」の回答の内容については「一過性のもの」「けんか」である等、深刻な状況ではないことが判明しました。しかし、数値の事実はしっかり受け止め、今後、予兆の把握も含め、児童との定期的な教育相談や日常的な対話に努めていきます。

②については、「いじめはいかなる場合も許されない」という意識付けに努めるとともに、「思わない」「分からない」と答える児童の内面を揺さぶるような授業を行い、他者への「思いやり」「助け合い」の心情を育てていくよう指導を継続して参ります。

学校では校外における「気になる」行動や様子、家庭において児童が発する「変化のサイン」等についても情報を収集できればと考えております。何かありましたら、遠慮なく学校まで情報をお寄せください。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。